久留米工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2	2019年度)	授業科目	英語2			
科目基礎情報									
科目番号	2E08	修							
授業形態	講義			単位の種別と単位数	数 履修単位	: 4			
開設学科	電気電子工学	科		対象学年	2				
開設期	通年			週時間数	前期:4 後	前期:4 後期:4			
教科書/教材	Revised Polestar English Communication II (数研出版) 、Revised Polestar English Communication ナビゲーションノート(数研出版)、Word Tree 3000 英単語・熟語3000語レベル(文英堂)								
担当教員	米永 正敏								
到接口煙									

## |到達日標

- 1. 英文の構造を正確に理解する力と、語彙を増やし、やや高度な英文を講読する力を養うとともに、基本的な英語で、自ら表現できるようになる。 2. 1年時に学習した英文法の基礎を確認し、さらに高度な文法を理解する。 3. 幅広い分野の文章を読み、理解し、考察することによって、コミュニケーションに不可欠な思考力や洞察力を発展させる。

## ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
英語表現		中学で学習した語彙を使用して、 英語で表現できる。	中学で学習した語彙を使用して、 英語で表現できない。		
文法	2年次で学習した英文法を理解している。	1年次で学習した英文法を理解している。	1年次で学習した英文法を理解していない。		
読解	文章を読んで、内容について自分 の意見を持つことができる。	文章を読んで、内容を理解するこ とができる。	文章を読んで、内容を理解するこ とができるない。		

## 学科の到達目標項目との関係

## 教育方法等

3/113/3/24/3	
概要	英語 I や、英語演習 I で学習した内容を基に、さらに進展させた高度な英語表現の学習等の授業を通して、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの四技能をバランスよく発展させる。
授業の進め方・方法	授業では、1年時に学習した英文法を確認しながら教科書を読み、さらに高度な表現を理解していく。 授業は、教科書に沿ってすすめる。適宜、小テスト、課題レポートを課す。
注意点	(1) 点数配分:中間試験と定期試験で80%、小テストと課題で20%とする。 (2) 評価基準:60点以上を合格とする。 (3) 再試:課題等において問題がない場合、再試を行うことがある。

英和辞書(書籍の辞書、電子辞書)及び1年で使用した文法参考書を必ず持参してください。

授業計画

授業計劃	쁴			
		週	授業内容	週ごとの到達目標
		1週	オリエンテーション	授業内容を把握し、学習計画を立てる
		2週	Lesson 1: Japan Through Foreign Eyes	完了不定詞、to-不定詞の受動態、助動詞+have+過去 分詞
		3週	Lesson 1: Japan Through Foreign Eyes	完了不定詞、to-不定詞の受動態、助動詞+have+過去 分詞
	1 at O	4週	Lesson 1: Japan Through Foreign Eyes	完了不定詞、to-不定詞の受動態、助動詞+have+過 去分詞
	1stQ	5週	Lesson 2: Universal Design—Making Everyone Safer and Happier	前置詞と関係代名詞、形式目的語 it
		6週	Lesson 2: Universal Design—Making Everyone Safer and Happier	前置詞と関係代名詞、形式目的語 it
		7週	Lesson 2: Universal Design—Making Everyone Safer and Happier	前置詞と関係代名詞、形式目的語 it
		8週	復習と中間試験	これまでの学習内容の復習
前期		9週	Lesson 3: Table for Two—Helping Others as You Eat	関係代名詞の継続用法、関係副詞の継続用法、進行形の受動態(be+being+過去分詞)
		10週	Lesson 3: Table for Two—Helping Others as You Eat	関係代名詞の継続用法、関係副詞の継続用法、進行形の受動態(be+being+過去分詞)
		11週	Lesson 3: Table for Two—Helping Others as You Eat	関係代名詞の継続用法、関係副詞の継続用法、進行形の受動態(be+being+過去分詞)
	2ndQ	12週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul	完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形
		13週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul	完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形
		14週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul	完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形
		15週	Lesson 4: The Story of the Ertugrul	完了形の分詞構文、what+(little/few)+名詞、未来完了形
		16週		
		1週	Lesson 5: Let's Stop Saying "That's Impossible"	句や節を受けるwhich, be+to-不定詞
		2週	Lesson 5: Let's Stop Saying "That's Impossible"	句や節を受けるwhich, be+to-不定詞
		3週	Lesson 6: The Miracle of Curitiba	複合関係詞、S+V(使役動詞)+O+C(過去分詞)
後期	3rdQ	4週	Lesson 6: The Miracle of Curitiba	複合関係詞、S+V(使役動詞)+O+C(過去分詞)
		5週	Lesson 7: Rakugo in English	so/neither+(助)動詞+主語, as if
	1	6週	Lesson 7:Rakugo in English	so/neither+(助)動詞+主語, as if
		7週	復習と中間試験	これまでの学習事項の復習

		8週	. L	esson 8: Ne	elson I	Mandela and the S	Springboks	関係代名詞の継続月 、結果を表すto-不		of which)	、仮定法現在	
		9週	. L	esson 8: Nelson Mandela and the Springboks			関係代名詞の継続用法(~+of which)、仮定法現在 、結果を表すto-不定詞					
		10ì	周日	Lesson 9: The Most Advanced Water—"NEWater"			、					
		11ì				t Advanced Water		過去分詞の分詞構				
		12ì	周 L	esson 9:Th	e Mos	t Advanced Water	—"NEWater"	過去分詞の分詞構図				
	13ì	周 L	Lesson 10: Less Is More			主語の省略、付帯状況のwith, 関係詞節中に他の節を 含む場合						
				esson 10: L	ess Is	More		主語の省略、付帯状況のwith, 関係詞節中に他の節を 含む場合				
				esson 10: L	ess Is	s More		主語の省略、付帯状況のwith, 関係詞節中に他の節を 含む場合				
		16ì	周									
モデルコ	アカリ	キュ	ラムのき	学習内容と	到達	目標						
分類			分野	学習内容	容 :	学習内容の到達目標	Ē.			到達レベノ	レ 授業週	
					l.	聞き手に伝わるよう ーション、音のつな	。 の 、句・文における がりに配慮して、	る基本的なリズムや 音読あるいは発話	イントネできる。	2	前2,後7	
				<b>本語</b> (書)	F		ンるような発話が <sup>-</sup>	 できるよう、英語の		2	前3,後8	
				英語運 基礎と 知識	; ; ;	中学で既習の語彙の	)定着を図り、高	等学校学習指導要領 る英語専門用語を習	に準じた 得して適	2	前4,後9	
					ī			 高等学校学習指導要 ヨできる。	領に準じ	2	前5,後10	
						日常生活や身近な記	・ 題に関して、毎2	分100語程度の速度 要な情報を聞きとる	ではっき ことがで	2	前6,後11	
					Ī			分の意見や感想を基	本的な表	2	前7,後12	
				英語運		説明や物語などの文 ように音読ができる	ズ章を毎分100語程 る。	呈度の速度で聞き手	に伝わる	2	後13,後14	
				力の基礎の	楚固 [		た文章を読み、 <sup>-</sup>	その概要を把握し必	要な情報	2	後4,後14	
	人文・社 科学		英語		E			分の意見や感想を整 英語で書くことがで		2	前2,前8,後 14	
						母国以外の言語や文 面で積極的にコミュ	て化を理解しよう。 ユニケーションを[	とする姿勢をもち、 図ることができる。	実際の場	2	前3,前9,後 14	
其礎的能力		社会				実際の場面や目的に (ジェスチャー、ア-	応じて、基本的だ イコンタクト)をご	なコミュニケーショ 適切に用いることが	ン方略 できる。	2	前4,前10	
基礎的能力				入吅		1	する報告や対話など 握し、情報を聞き取	だを毎分120語程原 なることができる。		概要を把	2	前5,前11
					١,	英語でのディスカッ 、教室内でのやり取 きる。	ッション(必要に応 双りや教室外でのI	じてディベート)を 日常的な質問や応答	想定して などがで	2	前6,前12	
							英語でディスカッシ 学生自ら準備活動や 。	νヨン(必要に応じ ッ情報収集を行い、	てディベート)を行 主体的な態度で行	うため、 動できる	2	前7,前13
					<u> </u>	母国以外の言語や文 で英語で円滑なコミ	て化を理解しよう。 ミュニケーション <sup>を</sup>	とする姿勢をもち、 をとることができる	教室内外 。	2	前8,前14	
				力向上の	語運用能	関心のあるトピック	7について、200詞	吾程度の文章をパラ 留意して書くことが	グラフラ	2	前9,前15	
					めの学	1 1	関心のあるトピック 平易な英語での口頭 のやりとりができる	発表や、内容に	野のプレゼン等にも 関する簡単な質問や	ーー つながる 応答など	2	前10,前16
					Ī	 関心のあるトピック	7や自分の専門分類	野に関する論文やマ 読み取ることができ		2	前12,後1	
					英文資料を、自分の専門分野に関する論や口頭発表用の資料等の作成にもつながライティングにおける基礎的な語彙や表きる。			トラクト	2	前13,後 1,後2		
					3	実際の場面や目的に	応じて、効果的バイコンタクト、代 できる。	なコミュニケーショ :用表現、聞き返しな	ン方略 ぶど)を適	2	前14,後3	
						日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。			2	前15,後4		
分野横断的	\	14/16	NI E-21 11		- 17	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。			外国語で	2	後2,後5	
能力	汎用的 	技能	汎用的技	技能  汎用的i 	支能 1	他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。			2	後3,後6		
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。			成立させ	2	後4,後7			
評価割合												
	訂	糠		小テスト・	課題					<u> </u>	計	
総合評価割る	<u></u>	0		20		0	0	0	0	1	00	
基礎的能力 80			20	0 0		0	0	1	00			

専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0